

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-152	13-112 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Comorbidity of posttraumatic stress disorder with alcohol dependence among US adults: results from National Epidemiological Survey on Alcohol and Related Conditions. 米国における心的外傷後ストレス障害とアルコール依存症の共存症		
執筆者		
Blanco C, Xu Y, Brady K, Pérez-Fuentes G, Okuda M, Wang S.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2013 Oct 1;132(3):630-8. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2013.04.016.		
キーワード		PMID
PTSD(心的外傷後ストレス障害) AD(アルコール依存症) PTSD-AD 共存症 治療		23702490
要 旨		
<p>目的： 心的外傷後ストレス障害(PTSD)とアルコール依存症(AD)の共存症が高い割合で確認されている中で、一般集団における PTSD-AD 共存症の罹患率や治療の状況、治療を求める割合、リスク因子、発症に至るまでの治療のパターン等がほとんど把握できていないため、検証する。</p> <p>方法： 第 2 次 NESARC 調査(アルコールと関連疾患に関する米国国立疫学調査)の対象者を含む 34653 名の集団において、社会的なステータスや精神障害罹患率、治療を求める割合に関するオッズ比、頻度、加重平均を算出した。</p> <p>結果： 一般集団において PTSD 単独発症、AD 単独発症、PTSD-AD 共存症の生涯罹患率はそれぞれ 4.83%、13.66%、1.59%であった。PTSD-AD 共存症者は PTSD 単独者や AD 単独者と比較して、子供時代の困窮を経験しており Axis I 障害もしくは Axis II 障害と自殺未遂の割合が高かった。PTSD 単独発症者と比較して PTSD-AD 共存症者では PTSD 診断基準の項目をより多く満たし、PTSD 発症も早く、PTSD の症状を緩和する目的での薬物やアルコールの使用を行う傾向があった。また AD 単独発症者と比較して PTSD-AD 共存症者では AD 診断基準の項目をより多く満たし、障害が大きい傾向があった。PTSD-AD 共存症者では AD の治療を求める者の割合が AD 単独発症者よりも高かったが、PTSD 単独発症者とはほとんど同じであった。</p> <p>結論： PTSD 単独発症者や AD 単独発症者に対して比較した場合においても PTSD-AD 共存症者は広範囲に渡って高度に重症であることと関連することが分かったが、依然として患者が治療を求める割合は低かった。したがって PTSD-AD 共存症者に対する治療行為へのアクセスや治療結果を改善する必要がある。</p>		